科目ナンバー	HIS-1-004-sn			科目名	日本史概説				
教員名	野口 華世		開講年度学期	2020年度 前期		単	单位数	2	
概要 *	・日本の原始・古代〜近世(江戸時代)までの歴史を学ぶ。 ・「史料」「資料」から歴史叙述が構成されていることを理解する。 ・歴史学としての日本史を学ぶとともに、教科書等に書かれている通説が、研究の進展により読み直されていることも学ぶ。また、国際関係の歴史についても留意する。 ・日本の全体史と群馬との関わりにも触れていく。 ・後期の講座「日本近代史」(担当松田先生、明治期〜昭和初期)に接続する講座である。								
到達目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・原始・古代と「代表」にと、「代表」には出ること、今の日本の一般には、「のから、日本の文化の形成過程について考える能力を養う。 ・知識を学ぶだけではなく、通説として常識化している史実であっても、異なった見方により見直すことができることを理解する。 ・歴史や事象を、いろいろな角度から見て、考える力を養う。 ・自分なりの歴史観を、客観的な根拠(史料)のもとに考えられるようになる。 ・授業の中では、特に「史料」を読むことを重視する。したがって「史料」を的確に読解し、そこから何が明らかになるのかということを導き出す力を養っていく。 ・根拠を元にした論述は、社会人になってからも大事なスキルである。そのスキルを学ぼう。 ・上記をふまえ、「史料」を根拠としながら、的確な日本語を用い、歴史を自分なりに叙述できるようになる、ということが到達目標である。								
「共愛12の力」との	対応					_			
識見	_	自律する力		コミュニケーショ	コミュニケーションカ		問題に対応する力		
共生のための知識	0	自己を理解する力	0	伝え合う力		0	分析し、思	考する力	
共生のための態度	0	自己を抑制する力		協働する力			構想し、実	行する力	
グローカル・マイ ンド		主体性	0	関係を構築する	らカ	0	実践的スキ	ドル	
教授法及び課題の フィードバック方 法	・講義を中心に進める。 ・担当者作成のプリントやテキスト(写真資料集)を活用する。 ・準備学習として、教材の授業内容部分や、参考文献の該当箇所を毎回読んでくる。 ・毎回、授業で取り扱った史料の解釈とそこから何が言えるのかということをまとめて、次週に提出してもらう。これは復習学修であるとともに、出席となる。 ・毎回、リアクションペーパー(コメント用紙)も配布し、感想・質問・意見などを書いてもらう。次の授業ではその一部を紹介することによって、学生が互いの意見を知ったり、担当者が質問に答えるなどの振り返りを行い、一方通行になりがちな講義を双方向授業にする。 ・期間途中(前半)に、歴史に関わる本を図書館で借りて読み、課題を提出するという図書館との連携課題がある。また受講生の中から希望者を募り、「本のプレゼン」をしてもらう。これらのことを中間まとめの際に行う予定である。 ・授業内容(史料)に則した中間課題を提出してもらう。・授業をよりよく理解するために、下記の参考文献を準備学習に活用する。								
アクティブラーニング	ブ	サービスラ	ラーニング			課題解決型	学修		
受講条件 前提 科目	と ・特になし。 ・接続する講座なので、後期の「日本近代史」を受講することを勧める。								
アセスメントポリ シー及び評価方法	毎回の提出物・課題(授業への取り組み姿勢を含む)(以上70%)、中間課題・学期末課題またはテスト(以上30%)で総合的に評価する。								
教材	『日本史のアーカイブ 』 とうほう ISBN978-4-8090-7978-8 C7021 (毎時間持参すること、過年度版をすでに持っている人はそれでもよい)								
参考図書	・『歴史の「常識」をよむ』東京大学出版会、2015年 ・『再検証 書き換えられる日本史』小径社、2011年 ・『もういちど読む 山川日本史』山川出版社、2009年 ・『こんなに変わった歴史教科書』新潮文庫、2011年 ・『新編史料でたどる日本史事典』東京堂出版、2012年 ・『日本史史料』1古代・2中世・3近世、岩波書店、1998~2006年 *その他の参考文献は授業でも紹介する。								

内容・スケジュール

授業学修内容	ガイダンス(概要紹介)					
授業外学修内 容	シラバスを読んでくる。	時間数	0.5			
2週目						
授業学修内容	日本の原始時代を資・史料から読み解く。 邪馬台国に関する資・史料を読み解きながら、当時の国際社会における列島社会の位置づけを理解する。					
授業外学修内 容	準備学習として教材または資料の指定箇所を読む。振り返りとして史料の解釈とそこから言えることをまとめる(次回提出)。	時間数	1			
3週目						
授業学修内容	飛鳥時代を史料から読み解く。 飛鳥時代の史料を読み解くことで、古代国家形成へのみちのりや、東アジア世界における日本の位置づけ を理解する。同時に史料批判ということを学ぶ。					
授業外学修内 容	準備学習として教材または資料の指定箇所を読む。振り返りとして史料の解釈とそこから言えることをまとめる(次回提出)。日本史に関わる本を図書館で借りて読む。	時間数	1.5			
4週目						
授業学修内容	奈良時代を史料から読み解く。 奈良時代の史料を読み解くことで、仏教がこの頃の日本に与えた影響を考える。 う視点からも理解を試みる。	東アジア世界	や群馬とい			
授業外学修内 容	準備学習として教材または資料の指定箇所を読む。振り返りとして史料の解釈とそこから言えることをまとめる(次回提出)。日本史に関わる本を図書館で借りて読む。	時間数	1.5			
5週目						
授業学修内容	平安時代を史料から読み解く。 平安時代の史料を読み解くことで、摂関時代とはどういう時代であったのかを考える。当時の社会的変化 ・文化的影響もふまえて理解する。					
授業外学修内 容	準備学習として教材または資料の指定箇所を読む。振り返りとして史料の解釈とそこから言えることをまとめる(次回提出)。日本史に関わる本を図書館で借りて読む。	時間数	1.5			
6週目	·	•				
授業学修内容	院政時代を史料から読み解く。 院政時代の史料を読み解くことで、院政がどのように始まったのかを考える。中世 の社会的変化もふまえて理解する。	せの萌芽といれ	つれる時代			
授業外学修内 容	準備学習として教材または資料の指定箇所を読む。振り返りとして史料の解釈とそこから言えることをまとめる(次回提出)。日本史に関わる本を図書館で借りて読む。		1.5			
7週目						
授業学修内容	鎌倉前期を史料から読み解く。 鎌倉前期の史料を読み解くことで、鎌倉時代のはじまり、武士政権の誕生とはどきを考える。	ういうことであ	ったのか			
授業外学修内 容	準備学習として教材または資料の指定箇所を読む。振り返りとして史料の解釈とそこから言えることをまとめる(次回提出)。「読書課題」を作成し、図書館に提出する。	時間数	1.5			
8週目						
授業学修内容	中間まとめ 提出された全ての「読書課題」の紹介と「本のプレゼンをしよう」(希望者によるプ	レゼン)を実旅	する			
授業外学修内 容	前半部分の復習をする。希望者はプレゼンを準備し、プレゼンをする。受講者 はプレゼンに関するコメントペーパーを提出する。中間課題を作成する。	時間数	1.5			
9週目	1					
授業学修内容	鎌倉後期を史料から読み解く。 鎌倉後期の史料を読み解くことで、蒙古襲来とはどういうことであったのか、東アジア世界という視点から考える。蒙古襲来が及ぼした社会的影響を理解する。					
授業外学修内 容	準備学習として教材または資料の指定箇所を読む。振り返りとして史料の解 釈とそこから言えることをまとめる(次回提出)。中間課題を作成する	時間数	2			
10週目	т					

授業学修内容	室町時代を史料から読み解く。							
以来于修门古	室町時代の史料を読み解くことで、日明貿易を中心に当該期の東アジア交流とそれを必要とした室町幕府の意義を考える。							
授業外学修内 容	準備学習として教材または資料の指定箇所を読む。振り返りとして史料の解 釈とそこから言えることをまとめる(次回提出)。中間課題を作成し提出する。	時間数	2					
11週目								
授業学修内容	戦国時代を史料から読み解く。 戦国時代の戦場に関する史料を読み解くことで、戦闘の真実と戦国の乱世から近世社会形成へと向かう 道筋を考える。							
授業外学修内 容	準備学習として教材または資料の指定箇所を読む。振り返りとして史料の解 釈とそこから言えることをまとめる(次回提出)。	時間数	1					
12週目								
授業学修内容	江戸時代を農村史料から読み解く。 慶安の触書という史料を読み解きながら、その解釈が変化した過程をたどり、そこから見えてくる江戸時 代の農村社会を考える。							
授業外学修内 容	準備学習として教材または資料の指定箇所を読む。振り返りとして史料の解釈とそこから言えることをまとめる(次回提出)。	時間数	1					
13週目		-						
授業学修内容	江戸時代を外交史料から読み解く。 江戸時代の外交史料を読み解くことによって、鎖国と言われてきた江戸時代の外交の実態を考え、世界の 動向に日本を位置づける。							
授業外学修内 容	準備学習として教材または資料の指定箇所を読む。振り返りとして史料の解釈とそこから言えることをまとめる(次回提出)。期末課題あるいはテストの課題を作成する。		2					
14週目			1					
授業学修内容	江戸時代の社会を史料から読み解く。 生類憐みの令という史料を読み解くことによって、江戸幕府がどのように民衆統制ったのかということまで考える。	政策を変化さ	せてい					
授業外学修内 容	準備学習として教材または資料の指定箇所を読む。振り返りとして史料の解 釈とそこから言えることをまとめる(次回提出)。 期末課題あるいはテストの 課題を作成する。	時間数	2					
15週目								
授業学修内容	講義のまとめ ―日本の前近代社会― *以上の授業の順番・内容などは進度・理解度などにより変更になる場合がある。							
授業外学修内 容	期末課題あるいはテストの課題を作成する。	時間数	2					
上記の授業外学修時間の合計			22.5					
その他に必要な	自習時間	67.5						

Number	HIS-1-004-sn	Subject Outline of Ja		nese History		
Name	野口 華世(Noguchi Hanayo)		First semester fo r 2020	Credits	2	
Course 0 utline	We will learn the history of Japan from the origin and ancient times to the early modern period (Edo Period) Along with learning an outline of Japanese history, we will also learn how popular be eliefs written in textbooks have been reread due to the development of research. We will also ke ep international history in mind We will also touch on the relationship between Japan's comprehensive history and Gunma Prefecture The course is linked to the course in the second semester "History of Modern Japan" (from the Meiji Period to the early Showa Period)(Noguchi).?					